

「盆栽」

～世界が虜・命ある芸術のガイディングをマスター～

2017年1月11日（水）・12日（木）実施 JGA 第一支部研修終了レポート



1月11日と12日、江戸川区の春花園 BONSAI 美術館で盆栽の研修が行われました。各日とも午前の部と午後の部を開催し、計4回合計54名（JGA 会員51名、非会員1名、運営委員2名）が参加しました。各回の参加人数を改めて絞ったスタイルの研修でしたので、貴重な盆栽を間近に見ながらお話をうかがう事ができました。

講師の神康文さんは、美術館を運営される日本を代表する盆栽作家小林罔雄先生のお弟子さんで、海外からのお客様の対応を長く経験されています。神さんから、説明のポイントや流れなど、実践的なお話をうかがう事ができました。



研修前半は屋外庭園で、お客様からの質問で最も多い、“春花園の中で一番大きな盆栽、一番古い盆栽、そして一番高価な盆栽”をご紹介頂きながら、木の種類、形の作り方、管理の方法、肥料、原木の入手方法などの基本的な知識を勉強しました。良い盆栽に不可欠の要素は、「個性、調和、品格」とのことです。屋外には黒松を中心に、五葉松、真柏、梅、さつきなどなど、数えきれないほどの鉢が並んでいますが、樹齢数百年を超えるものも多く、それでもなお成長する姿には風格や力強さがありました。

後半は美術館の建物の中に移動しました。盆栽を引き立てるためにシンプルであって、かつ盆栽の力に負けないような立派な建物という事で、使用している木材などは選び抜かれた貴重なものばかりです。玄関から入って3つ並んだ部屋には、それぞれ真・行・草の異なる格の床の間があり、盆栽だけでなく、掛け軸、添配（水石や置物などの添えもの）がバランスよく配置され、季節を演出した趣の異なる世界が表現されていました。さらに奥には大小のお茶室もあり、それぞれの床の間にふさわしい飾り方を鑑賞する事ができました。



最後はサロン形式で、お茶とお菓子を頂きながら質疑応答を交え、昨今の盆栽事情から小林先生の人生哲学にも話が広がりました。残念ながら日本国内ではファンの高齢化が進んでいて盆栽人口は下降気味との事ですが、海外では大流行だそうです。しかも今年は日本で世界盆栽大会が開催されますから、多くの盆栽ファンが日本を訪れる事が予想されます。ガイドとしては盆栽の説明が求められる場もありそうです。今回の研修で学んだことをしっかり身につけ、盆栽の魅力をさらにアピールしていきたいと思いました。非常に内容の濃い、充実した研修でした。

